

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築事業		路河川名等	(一)南箕輪沢渡線		
事業毎の通番		2	市町村名	南箕輪村	箇所名(ふりがな)	神子柴(みこしば)	
事業概要	事業目的	当該路線は、南箕輪村神子柴地籍と伊那市沢渡地籍を結び、国道153号とほぼ平行に存在する県道である。主に伊那市街地北側への最短ルートである他、国道の渋滞を回避する車も多く、通過交通が多い道路であるが、沿線には人家が連担し、生活道路としても利用されている。当該箇所は幅員が狭小で線形も悪いため大型車同士のすれ違いが困難な状況であるため、地元から円滑な交通確保と安全性の確保について強い要望がある。併せて、一級河川大清水川の改修計画が策定中であるため、道路改築と河川改修を連携して実施し効果的かつ効果的な整備をする必要がある。					
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	県単河川改修事業					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:3,742台/日					
	着手年度	平成29年度	事業期間	4年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	1.3	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=150m、W=5.5(7.0)m			140,000	126,000	14,000	
年度事業内容(主な工種)	測量設計 一式			6,000		5,400	600
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間・経費等の減少 1.7億円 幅員狭小、歩道無区間の解消、通学路対策					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 河川改修事業との連携による効果的、効率的な事業推進					
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 : 3,742台/日 ○代替道路の有無 : あり ○交通結節点アクセス : 南箕輪村中心部より伊那IC、伊那市駅等へのアクセス、南箕輪村巡回バス路線 ○生活支援・観光振興 : 伊那市立病院、伊那北高校へのアクセス向上				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 伊那市都市計画マスタープランに位置づけあり ○緊急輸送路の路線指定 : 伊那市、南箕輪村地域防災計画避難所への避難経路 ○地域指定 : 東海地震防災対策強化地域				評価	C
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.32 ○事業期間 : 4年間(H29~H32) ○工法等の比較検討 : 渡河部について河川予備設計で工法検討済み ○他事業との連携 : 県単河川改修事業(H27~H32) 橋梁部において費用負担あり				評価	A
	緊急性	○近年の交通事故件数 : H20 1件物損(車両相互)、H24 1件物損(車両相互) ○道路環境改善 : 通勤時渋滞解消、すれ違い困難 ○歩道整備 : なし ○現況の幅員、半径、勾配 : 曲線部拡幅なし、現況車道幅員5.0m				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 大清水川治水砂防期成同盟会中心に地元区民にも情報共有 ○地域の取り組み : 溢水被害の原因解消に向けて道路改良について協力体制が準備されている ○地域の合意形成 : 道路改築、河川改修の早期着手・完成に向けて合意形成が図られている ○住民との協働 : 地元役員、区民等により道路、河川の草刈作業を年に1~2回程度実施				評価	B
	部意見	事業の必要性、効率性が高いため、平成29年度から事業化した。	行政改革課意見	現道は幅員が狭く、線形不良で、円滑な交通に支障をきたしていることから、必要性が認められる。	評価結果	○	総合評価

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

至箕輪町 (国)153号

道路改築工 L=150m W=5.5(7.0)m

H29 測量設計一式

至伊那市街

(一)大清水川

標準横断面図

0.75 | 2.75 | 2.75 | 0.75

至 (国)153号

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該路線は、南箕輪村神子柴地籍と伊那市沢渡地籍を結び、国道153号とほぼ平行に存在する県道である。主に伊那市街地北側への最短ルートで、国道の渋滞を回避する車も利用しており、当該箇所付近は通過交通も多い。沿線には人家が連担しており、車道も幅員狭小で線形も悪いため、大型車同士のすれ違いが困難であり、地元から円滑な交通確保と安全性の向上に対して強い要望がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	大清水川渡河部の断面が狭小なため、これまでもH16年台風23号やH24.7月豪雨などでたびたび溢水被害を生じていた。問題の解決には渡河部の断面拡大が必要であるが、これに併せて現道の幅員狭小、線形不良部の解消を図るべく、H28.8に開催された大清水川治水砂防期成同盟会中心に地元関係区からの強い要望が寄せられていた。
③事業説明等の経緯	H28.8に開催された大清水川治水砂防期成同盟会の他、毎年実施される市町村の事業要望の中でも当該箇所が道路、河川ともにボトルネック箇所として認識されており、道路改築と河川改修を併せて実施し、双方の問題の同時解決を求める声が非常に強い。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	H27年度より当該路線が渡河する一級河川大清水川の改修計画の策定を進めており、効率的に事業効果を高めるためには道路改築と河川改修を連携して、実施する必要がある。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺に住宅地があるため、道路法面について緑化検討。
⑥地域活性化への影響と配慮	駅や病院、高校等への利便性向上による暮らしやすい生活環境の形成、安全性の向上、交通の隘路の解消に伴うインターへのアクセス性の向上による地域産業への支援効果が期待される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N	35.85648
東経:E	137.9687